九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# 『栗生の方言』を読む

崎村，弘文
鹿児島大学教養部助教授

https://doi.org/10.15017/10384

出版情報：文獻探究. 29, pp.87-111, 1992-03-31. 文献探究の会
バージョン：
権利関係：

# 『栗生の方言』を読む

崎村弘文

筆者は、本誌26号から28号に亘って、山崎時造氏の遺著『栗生の方言』を翻字・紹介して来た。同書が鹿児島県熊毛郡屋久町栗生の方言語彙集として質量ともに優れたものであることは、解題にも述べた通りである。

一方で、筆者は、その間、屋久島の古集落18地点（上屋久町8地点・屋久町10地点）の方言を親しく調査する機会に恵まれた。それにより、集落ごとに微妙に異なる屋久島方言の全体的性格およびその中における栗生方言の位置・特徴について、やや詳しく知り得たように思う。

本稿は、そうした実地調査を経た眼で、あらためて『栗生の方言』の資料性を検討し直してみると、どういうことが言えるであろうか、という報告である。実地調査と云う中には、同書（昭和31、2年頃の成立と見られる）の所載語彙と現在の栗生方言の相当語彙との比較対照の作業も当然含まれるが、それについての詳細は別稿に譲ることとし、今回は概括的観点からの検討を旨としたい。

## 一、屋久島方言の概要

屋久島方言の諸相については、昭和41年から43年にかけて発表された上村孝二氏の調査報告に詳しいが、それから30年近く経った現在、若干の変容が生じているようである。

①音韻・音声

1、短母音の長音化

上村氏の報告には、へ一拍の名詞を長く引いて発音するのは屋久島方言の特徴で、集落の7割まではその特徴をもつVと述べられているが、該特徴は、現在、屋久町小島方言等に痕跡的に残っているだけで、ほとんどの集落の方言で認められなくなっている。おそらくは、共通語の影響によるものと思われる。

一方、へ2拍語で最後がイ列・ウ列音節で終わるばあい第1拍を長めるVとされた例については、現在でも「ウーシ（牛）」「カーキ（柿）」「ミーチ（道）」「ナーミ（波）」「ウース（臼）」「ラーク（楽）」の如くその存在が確認される。ただし、その出現頻度は、集落の方言により相異が有る。

また、へ3拍及びそれ以上から成る語にも長音化現象がしばしば見られるVとされた例についても、出現頻度こそ低いが、なお認められるようである。

2、長母音の短音化

上村氏がへ東京語などで長音化している語を短く発音することもかなり行なわれるVとされた例については、「サト（砂糖）」「スモ（相撲）」等若干の例を確認できる。ただし、これも集落の方言による相異が有り、一概には言えない。また、上村氏がへショチュ・ショチョVなどとして挙例された「焼酎」は、ほとんどの方言で「ショーチュー」の形になっており、共通語の強い影響力を示すこととなっている。

3、複母音の変化

アイ・エイ・オイ等の複母音は、ほとんどの方言でエ(1)に変化

するが、一部には「サータ（咲いた）」「オータータ（落といたへ落とした）」の如くアーと変化する例も見られる。

ウイ複母音は、全方言でイーに変化する。

4．オ列長音の開合

上村氏も述べられた如く、全方言でオ列長音の開合の区別は認められないようである。さらに、上村氏の挙例された、古い時代のオウ系・エウ系の音韻に対応するウ〔ɨ〕を含む語例も、現在ではかなり見出だし難くなっている。それだけ、共通語の影響が強まっているということであろう。

5．ガ行鼻音と濁音化

ガ行子音は、語中語尾では鼻濁音〔ŋ〕である。しかも、複母音等の後でもそうであって、薩摩半島南端のガ行鼻音を有する方言の場合のように〔g〕とならないこと、上村氏の指摘された通りである。ただし、この安定的〔ŋ〕も、一部では弱化→脱落の動きが有るようで、「クォーター（食おごたる（食べたい））」「フローター（降ろごたる（降りそうだ））」といった例が認められる。

語中語尾のカ行子音・タ行子音の有声化の例は、現在では、屋久町の一部の方言に痕跡的に認められるのみで、ほとんどの方言で見出だされなくなっている。

6．サ・ザ・ダ・ラ行音

セ・ゼの古音シェ・ジェの残存とダ行音のラ行音化・ラ行音のア・ヤ・ワ行音化は、いずれも屋久島方言の顕著な特徴の一つである。ダ行音のラ行音化は「ソレ（袖）」「ノロ（咽）」「オロイ（踊り）」「カルア（蔓）」「ナミラ（涙）」の如く、ラ行音のア・ヤ・ワ行音化は「ツア・ツヤ（顔）」「ハー（腹）」「ハイ（針）」「ムア（村）」「アブア・アブヤ（油）」「マクヤ・マクワ（枕）」の如く、それぞれ現われるが、現われ方は各集落方言により異なるようである。栗生方言の場合、前者の現象が見られずむしろラ行音のダ行音化が見られること、また、後者の現象についてもリ・レのイ化の如く限定的に見られるのみであること、の2点で他集落の方言と相異するところが大きいようである。

ザ行音とダ行音の混同も「カデ（風）」の如く認められるが、現在ではその傾向は弱いようである。

なお、一部の方言では「ミードゥ（水）」といった発音が認められるが、ドゥとズ〔dzu〕との区別は無く、いわゆる四つ仮名の区別は認められないようである（「雀」が「スルメ＜＊すず〔zu〕め）」となること等参照）。

7．サ行音の変化

〔ʃi〕＞〔çi〕「トヒナモン（年な者（老人））」の如き例が認められる。

8．ハ行音

上村氏の報告によれば、一部の方言に語形変化による〔ɸa〕〔ɸe〕〔ɸo〕等の音声が認められたようであるが、現在では見出だし難くなっている。これも、或るいは共通語化によるものか。

〔çi〕等の脱落「キャーベタ（引き破れた）」等。

9．ワ行音・クワ行音など

〔we〕「ウェー（甥）」等。

〔wo〕「ユウオ（魚）」等。

〔kwa〕「クワン（食わん）」等。

〔kwe〕「クェ（食え）」等。

〔kwo〕「クォー（食おう）」等。

〔gwa〕「グワイコク（外国）」等。

右は、多くの方言に認められる。

10．はねる音

イ．語末にぎ〔gi〕・ミ・ニ等の鼻音が来る場合

次に助詞が等が来れば〔gi〕＞〔N〕「クン（釘）」「スン（杉）」等。

〃　〔mi〕＞〔N〕「ウン（海）」「ナン（波）」等。

〃　〔ni〕＞〔N〕「ガン（蟹）」等。

右は、一部の方言に認められる。

〔nu〕＞〔N〕「イン（犬）」等。これは、ほとんどの方言に認められる。

ロ．動詞のル語尾

「アン（有る）」「クン（来る）」「スン（為る）」等。上屋久町楠川（くすがわ）・楠川（くすがわ）・屋久町麦生（むぎお）等、ごく一部の方言に認められる。

「クンナ（来るな）」「スンバッチ（為るけれども）」等。ほとんどの方言に認められる。

ハ．バ・マ行動詞の連用形音便

「タノンダ（頼んだ）」。上屋久町永田方言の例。他の方言では、「タノーダ」が一般的。

ニ．レイ

「モーレン（亡霊）」等。多くの方言に認められる。

ホ．語頭

「ンマ（馬）」「ンノミ・ンドモ（私たち）」等。ほとんどの方言に認められる。

このほか、はねる音については、上村氏の報告に「ツンバメ（燕）」といった添加の例や「ニジン（人参）」といった脱落の例が見えるが、現在では、そうした例は稀なものとなっているようである。

11．つまる音

イ．狭い母音で終わる語に〔d〕で始まる語が付く場合

「クッド（来るぞ）」「スッド（為るぞ）」等。上屋久町宮之浦方言等一部の方言に認められる。多くの方言では、「クンロ」「スンロ」等の形を取る。

ロ．狭い母音で終わる語にナ行音が付く場合

「カッドキ（柿の木）」「マッドキ（松の木）」「ツバッドキ（椿の木）」等。永田方言の例。他の方言では、「カーキンキ」「マーツンキ」等の形を取る（永田方言も該形を取ること有り）。

ハ．狭い母音で終わる語に〔dʒ〕〔dz〕が付く場合

「ミッヂャ（道だ）」等。永田等一部の方言に認められる。多くの方言では、「ミチヂャ」等の形を取る。

ニ．狭い母音で終わる語に〔b〕で始まる語が付く場合

「ヤッバ〔jabba〕（役場）」等。永田方言の例。他の方言では、「ヤクバ」等の形を取る。

ホ．3音節以上から成る語で後部が狭い母音ナラ行音の場合

「マックワ（枕）」「ウッショ（後ろ）」「クッヂャ（鯨）」「アッパ（油）」「シータッパ（尻たぶら）」等。いくつかの方言に認められる。

ヘ．語頭

「ッシャーミ〔ʃaːmi〕（虱）」等。いくつかの方言に認められる。

このほか、つまる音については、上村氏の報告に「メッケン（眉間（筆者の調査では「額」））」といった添加の例が見える

が、現在では、そうした例は一部の語彙に限定されたものとなっているようである。

②語法

1、動詞ニ段活用・ナ行変格活用の残存

古い時代の上二段活用・下二段活用の動詞に相当する動詞のうち、前者は五段活用化しているが、後者は「受ケン・受ケマス・受クッ・受ケーバ・受ケー」の如くなおその名残りを留めているようである。また、同ナ行変格活用動詞相当のものも、いくつかの方言ではなおその名残りを留めているようである。

2、バ・マ行五段活用動詞連用形ウ音便

「飛ブ」「飲ム」等の動詞の連用形音便は、ほとんどの方言で「飛ーダ」「飲ーダ」の如くいわゆるウ音便形を取る。

3、形容詞カ語尾と同イ語尾

形容詞は、終止連体形に「良カ」「赤カ」等のカ語尾の形と「良ー（＜良イ）」「赤ー（＜赤イ）」等のイ語尾由来と見られる形とが有る。いずれが優勢かは、集落の方言により異なる。

## 二、『栗生の方言』所載語彙の検討

①のー、

＜一拍の名詞を長く引いて発音する＞例は、それらしきものが2例（「せー（貝の名）」「のー（布）」）見出だされるが、他方引かない例が12例ほど有り、全般に引かない傾向が強いようである。関連する項目についての検討、次の通り。

あア　しり上がりに発音する。「あらまーほんとですか」。（感嘆詞の例。該当例とならない。）／いー　きり（錐）。…「いる」。（「いり」の訛形であろう。）／いい　ゆい（結）。（ユ→イの訛形であろう。）／え　餌。…／えー　あい（藍）。…（ai→e:の訛形であろう。）／えー　さよう。又よい、はい。又酔い。（感嘆詞の例ならびにoi→e:の訛形。）／き　気。精気。…／けー　かい（貝）。…又澱粉の黒味をおびた部分。…（前者はai→e:の訛形。後者は𧏾→カイ→ケーと転じたものか。）／しー　屎。小児に小便をさせるときの発声。…（感嘆詞の例。）／せ　で。「―がある」でがある。／せー　さいころ。又せい（精）。…又貝の名。（第一者は「さい（采）」の訛形。第二者はei→e:の訛形。第三者は「かめのて」の異称「せ」の長音形か。）／ちぇ　て（手）。…／どろ。櫓。…／にい　新い。「―か」あたらしい。…／のー　の（布）。布のかづ。ふたの・みの（二布ニ布）。…（「の（布）」の長音形か。）／ひ　忌日。命日。／びい　備蘭。蘭草。…／ふ　運否天賦。／ぶ　不。「―なかっこう」不格好。／へー　はえ（蠅）。又はう（逼）。又はい（灰）。（第一者はae→(ai→)e:の訛形。第二者は「はい」と有るべきでai→e:の訛形と見るべきものか。第三者はai→e:の訛形。）／べー　あかんべー。…（感嘆詞の例。）／み　身。自分。…／めー　正月十五日の小正月に白金黄金にかたどり白（米）黄（粟）の小餅をつくり柳の枝につけてこれを家の中に差。…又まゆ。繭玉。又まい（舞）。…又めい（姪）。又まいり。…「てら―」寺参り。又本来の姿。…本命。（第一者は第二者と同源即ち繭→マイ→メーと転じたものか。第三者はai→e:の訛形。第四者はei→e:の訛形。第五者は参り→マイイ→マイ→メーと転じたものか。第六者は「命」のei→e:訛形か。）／も　藻。…／や　鉄または木でつくり物を割るに用いる楔のような形のもの（切り鉄）。／よー　承諾の意。「おお」。…（感嘆詞の例。）／ん　うん。

音節の長短についての認識は明確なようであるから、この結果はそのままに認めて差し支え無いであろう。

〈2拍語で最後がイ列・ウ列音節で終わる場合第1拍を長める〉とされた例、ならびに〈3拍及びそれ以上から成る語にも長音化現象がしばしば見られる〉とされた例については、次のように認められる。

**あーい** あり（蟻）。／**あーいなーい** ありのまま。〈「有り篤（な）り」の訛形であろう。〉／**あおさーぎ** 青鷺。／**あーく** あく（灰汁）。「―まーき」…／**あだーい** 仇感。恐るべきこと。大変な。…〈語源には疑問が有るが不明。〉／**あだわーろー** あざわらう。／**あちぇやーい** あてもなく。〈「当て遣り」の訛形か。〉／**あーもーい** あわもり（泡盛）。…〈「あー」は「あわ」の訛形。「もーい」が「もり」より転じた長音形。〉／**あーれー** だんごなどにまぶす粉…又あれい（唖鈴）。…〈前者は古語「餅粉（あわ）」よりの転、後者は are:→ are:よりの転であろう。〉／**いかーい** いかー碗。…〈「碗」と有るは「碬」の誤か。注記不審なれど「いかり」よりの転と見らる。〉／**いかーぢゃー** いかなくてはならない。〈「行かでは」の転であろう。〉／**いけだめーちぇ** 息をつめて力強くものをいうさま。…〈「息溜めて」の転であろう。〉／**いそまーつ** いそまつ。磯松。海松。／**いたぎれー** 板切れ。…／**いっきー** 一気。すぐ。／**いっさーき** いっさき（青桐）。…又いさき（雑魚）。／**いっとーき** ほんのしばらく。〈この項の前に「いっとき 一時。しばらく。」と有るところを見ると、これはその強調語形か。〉／**いんどーき** 一時に、同時に…〈「一時（いっとき）」の転。〉／**いんぶーりー** 犬ぶるい。…〈「りー」は「ri:」の訛形。〉／**うーい** うり（瓜）。／**うだーつ** うだち（梲）。…／**うっちぇーちぇーけ** おきざりにしておけ。〈「うち置いちぇおけ」→「うっちょいちぇけ」よりの転。第一の「ちぇー」は「tʃoi:」の訛形。第二のそれは或るいは「tʃeo」の訛形と見るべきか。〉／**えーとー** やいと（灸）。〈「えー」は「ja:」の訛形。〉／**おおばーれー** 大袱い。〈「ばー」が該当長音形。〉／**おおようぎ** 大夜着（ぎ）。…〈「よう」が該当長音形。〉／**おーき** おき（熨）。…／**おきなー** のどちんこ。…〈「翁（おきな）」を語源とするものではないかと見て挙げる。〉／**おせんこばーち** 押餌の粉鉢。…／**おなーぎ** うなぎ（鰻）。…／**おはーる** 昔おはるという愚女が居た。…／**おーび** 帯。…／**おーぶく** お仏供。…／**おぼえしらーぢ** 覚え知らずに。…／**おーもさんぼ** 思存分。〈これは或るいは「*おもーさんぼ」の語音顛倒形か。〉／**おんぼう** 嫗母。老母。〈「おばば」の転か。その場合、*obaba→*obaba→*obawa→*obaw→obo:の如く転じたと考える―語頭が0であったかwoであったか、「ん」がいつの段階から有ったか、bo:の如き段階を経たか否かについてはひとまず措くとして―ならば、或るいは挙げるには当らないか。〉／**かーい** …又かゆ（粥）。又かり（猟）。…／**―がーい** …ごっこ。「はしい―」走りぐら。…〈「交（かー）い」の転か。或るいは「比（くら）べ」等からの複雑な転か。〉／**かーいのこ** 大根を采の目に切り肉などと煮込みにした料理。〈「搗（かり）の子」の転か。〉／**かーき** 柿。又垣。又牡蠣。／**かーぎ** 鉤。「―っちょー」かぎ。／**かさごーき** 蓋付きの木椀。〈「蓋（かさ）御器」の訛形。〉／**かーす** かす（糟）。…／**かーせー** かせい（加勢）。…〈「せー」は「sei」の訛形。〉／**かたげーし** 片岸。…／**かーぢ** かぢ（舵）。…／**かーもうじ** かもじ。…／**かーるう** せおう。（ただし、「かるう」とも。）／**かれこーす** 枯れ越す。…／**かわせーら** 川瀬羅（せら）。細長くごろごろした処を「せーら」（狭羅）という。…〈「せーら」は「せらぎ」の「ぎ」脱落形よりの訛形か。〉／**ぎーし** 岸。又土手。／**きのごーき** 木の椀。〈「木の御器」の訛形。〉／**きまーつ** 木松。…広葉樹の薪を「まーぎ」真木という。…／**くーい** くり（栗）。

／くさーび　くさび（楔）。…／くさわーき　くさわき（草脇）。…／くねーび　九年母。（原形「くねぶ」と見て挙げる。）／くーびょーなげた　首を投げた。…（「くー」が該当長音形。）／くまえーび　隈えび。しま海老。…／げーしい　下盥。…（「下すいへ*げ」の転か。）／けっとー　けっと。毛布。／げーどーもん　外道者。（「げー」が該当長音形。）／こいとうしむねー　いとしくもない。…（或るいは「小いとおしゅうも無い」の転で挙げるに当らぬものか。）／ごうらしなーげー　業らしげに。かあいそうに。／ごーき　ごき（碗）。（「御器」の訛形。）／こころざーしゃーにらんは　志は韮の葉。…（「ざー」が該当長音形。）／こーちこち　しいそう。／ごーてー　五体。…（「てー」は*tai の訛形。）／こーねーがーき　木練柿。甘柿。（「こー」「がー」が該当長音形。「ねー」は*neri ↓ *nei ↓ ne:* と転じたものか。）／こーぶ　くも（蜘蛛）。…（九州西南部に分布する「こぶ」よりの訛形か。）／ごーみ　ごみ。塵。／ごーもく　ちりあくた。…／さーぎっちょう　左義長。（「さぎっちょう」とも。）／さーし　差し金。…／さーす　さつ（紙幣）。又やぶじらみ。…（後者は、鹿児島県本土で「さし」と云う。）／さっぱーい　さっぱい。（「さっぱい」とも。）／―さーめー　…さまに。…（「めー」は*-mani ↓ *-mai ↓ *-mai ↓ -me:* と転じたものか。）／したーぢ　したぢ（下地）。…／しゃーく　ひしゃく。又酌。…又尺。又しゃく（癪）。／しょうく　しょく（卓）。…／しょうてーもち　世帯持ち。…（「しょう」が該当長音形。）／しょせいらんぽー　書生らんぷ。…／しらさーぎ　白鷺。／しるごーき　汁碗。（「汁御器」の訛形。）／じれーかーぎ　自在鍵。（「かー」が該当長音形。）／しんそう　しそう（紫蘇）。／すすさーれー　筋さらえ。…（「さー」が該当長音形。）／すずもーる　しづむ（沈）。（「*沈む」の再活用形「*沈まる」の転「*沈もる」よりの訛形ではないかと見て挙げる。）／すまーる　すばる星（昴）。／せしなーぎ　流しの溜り水。せせなご。／せーび　せみ（蟬）。／そうびく　…引っ張って連れ来ること。／そーくい　そくい（糊）。…こそくい。（「繕り」の訛形「繕い」の「こ」を取った形「そくい」の長音形と見られる。「糊」の注記は、語源を「続飯」に求めてのものか、不審。）／そーだぐわーし　小麦粉に…炭酸ソーダを入れて…蒸したもの。…（「ソーダ菓子」の訛形。）／だーいも　誰れも。…／たいわんばーしょう　台湾種バナナ。…（「台湾芭蕉」の訛形。）／たからんばーち　竹の皮笠。…（「竹わらの鉢」の訛形か。cf.『日葡辞書』へTacauaragasa. 竹の皮で作った笠。V。）／だーし　だし。鰹節の異名。…／だーつ　さより。…だつ。／だーてーむねー　だらしのないこと。…（「伊達も無い」の訛形か。）／たーぶ　たぶ（椨）。…／たーれー　たらい。…（「たー」が該当長音形。）／だんきー　胸をたたいて喜びいさむこと。（「乱喜」（？）の転か。）／だんばーれー　最盛期となり乱獲する漁期。（「乱晴れ」（？）の転か。）／だんぽー　らんぷ。…／ちのまーき　粽のまーき。ちまき。…／ちょうのー　ちょうな（手斧）。／ちめーのしこ　爪ほどの分量。…／ちんばくろう　つばくろ。つばめ。…／ちんのおなーぎ　ちんの鰻。…／つーい　つるべ。…又鍋のつり。又つりせん。（全て「釣り」よりの訛形であろう。）／ついえー　不必用。不用。（「費」の転義訛形であろう。）／つーき　…「―とばせ」叩きとばせ。…（「突き」の訛形であろう。）／つーく　強く打つ。…（「突く」の訛形であろう。）／つーけ　強打せよ。…（「突け」の訛形であろう。）／つーこーせ　叩き殺せ。（「突き殺せ」の訛形であろう。）／つらばーぢむね　面恥もない。…／つんのはーし　つるばし。／でーぶち　船の上縁りか

ら張り出した波よけの蔀。（「出縁」の訛形であろう。）／てーまーつ　たいまつ。（「まー」が該当長音形。）／とーいかーじ　とりかじ。…／とーいがーけ　通りがかりに。…（「通り掛け」の訛形。）／とーいどーい　とりどり。種々雑多。／といもーい　何々ぐらい。…何々ぜんご。…（「取り盛り」（？）の転か。）／どうひょう　土俵。又げっぷ。（後者は、鹿児島県本土で「どへ」「どひゅう」等と云うところを見ると、原形は「*どへう」の如きものか。とすれば、或るいは「斗柄」の転義語曖濁音形に発するものか。）／どうぶーりー　胴震い。（「ぶー」が該当長音形。）／とぎーね　もちぎね。てぎね。…／とくじらーみ　つぶじらみ（陰蝨）。…／とっぽーじん　ばった（飛蝗）。（鹿児島県本土の一部で「飛び降りる」ことを「とっぽじっ」と云うのを参考にすれば、これは、「飛び降じり」の訛形「とっぽじい」より生じたものかと思われる。）／なーぎ　なぎの木（椰）。／なけあーみ　投げ網。…／なーにようがら　何はなくとも。何がな。…（「何をがな」の転。）／なーみのはな　かいめん。（「波の花」の訛形。）／ぬくもーる　ぬくくなる。あたたまる。／ねーきー　ねき・そば・かたわら。／ねこんばっちー　ずぼん下。「ばっち」朝鮮で…股引。／のーい　のり。苔。又糊。／のーち　のち（後）。…／のーび　のび（野火）。…／のーびる　のびる（野蒜）。／のーま　大波が連続して打ち寄せた後暫くの間波が静かになること。…（「（波）の間」の訛形か。或るいは、〈油断〉を示す「のま」、〈泥砂地の漁場〉を指す「のま」等の訛形か。）／はこだんぽー　箱らんぷ。…／はーし　はし。箸。…又橋。又端。／ばーし　くわずいも。…（cf.奄美大島等で「ばじ」と云う。）／ばーしょう　ばしょう。ばなな。／はーしんこう　はし（橋）。又梯子。／はーだーし　はだし（跣）。／はーち　はち（鉢）。又蜂。／はーぢ　はぢ（恥）。又はぢの木（櫨）。／ばーち　撓。／はちまーき　鉢巻き。／はなばーしょう　花ばしょう。…／はまー　破魔。正月子供の遊戯。…／はまがーし　はまゆう。又はまかし。／はーよう　早緒。褌なわ。…（「はー」が該当長音形。）／はーろむ　はらむ（孕）。…／はんばっちー　短い股引。…（「ねこんばっちー」参照。）／ひえこーす　冷え凍える。（「冷え越す」の訛形。）／ひーがん　彼岸。／びしゃーご　みさご（雎鳩）。／ひのこまーつ　ひめこまつ。…／ひまわーい　日まわり。／ひよーい　ひより。…／ひーる　にんにく。大蒜。又かいこの蛾（蚕蛾）。又山ひる（蛭）。又昼。（第二者は、琉球方言で「蝶」のことをpapiroと云うのと関係有るか。）／ふくゆう　ふく蘭。…／ふすもうる　くすぼる。…／ぶたれー　ぶざま。…（「不ぶ垂れ」（？）の訛形か。）／ふっこぐわーし　ひき粉菓子。…／ふったわーき　雨が降った後。（「降った脇」の訛形であろう。）／ぶとう　太いこと。…又ぶと（蟆子）。ぶよ。／ふとーぎ　しとぎ（粢・糈）。…／ふなとう　漁夫。…（cf.『日本方言大辞典』に〈船人〉として九州・琉球方言の例を挙げる。ただし、補注に〈「ふなとー」は「船頭」か。〉と有る。）／ふーりー　ふるい（篩）。…又ふるい（震）。…（「ふー」が該当長音形。）／へーぎ　へぎ。薄くとること。…／へーくそかづら　へくそかづら（屁屎葛）。／へーご　へご。／べーら　小さい薪。…（cf.九州南部で「べら」と云う。）／ほあーし　帆脚。…／ぼーい　とんぼ。（鹿児島県本土・宮崎県諸方地方（旧薩摩藩領）で「ぼい」と云うが、語源が明らかでない。或るいは長音形の方が原形を止めるものかもしれない。）／ほーぐ　ほぐ（反故）。…／ほーしい　ほしいい（干飯）。／ほしさーれーだす　星さらけだす。星がさえて数多く輝く。（「星没え出す」の訛形か。）／ぼってー　古けた仕事着。…（茨城県等で〈ぼろの着物〉〈ぼろの厚い仕事着〉を〈ぼった〉と云うらしい

（『日本国語大辞典』）。「ぼってりした着物」の意であろう。栗生方言の語形も同じ発想に基づくもので、「ぼて」とでも云ったのが元ではなかろうか。）／**ほなーい**　ほなり。帆を上げたときの姿。／**まーき**　まき。「だんご」を葉に包んで蒸したもの。…／**まーげー**　まがい。本物でないもの。（「まー」が該当長音形。）／**またばーし**　またばし（股）。…（「股橋」の訛形であろう。）／**まーち**　まち（町）。通り。…（「**まち**」とも。）／**まーつ**　松。…／**まーる**　まる（虎子）。便器。／**みそがーい**　みそがゆ。／**みっじよがしようせー**　みつ女が世帯。…（「みつ女が処世」の訛形であろう。）／**めしごーき**　飯茶碗…。（「飯御器」の訛形。）／**めしばーち**　飯鉢。…／**めーろー**　女郎。下女。／**もーい**　もる（守）。…又もる（漏）。…（「守り」「漏り」の訛形。）／**もーえー**　もやい（紡）。又頼母子講。又共同して催すこと。（いずれも「もやい」の訛形。）／**もっこう**　ふご（畚）。（この長音形は中尖でも見られたらしい（『日本国語大辞典』）。）／**もーてー**　もとゆい（元結い）。（「もー」が該当長音形。「てー」は、*-tōi → *-tōi → *-tō → -tō と変化したものか。）／**もーへー**　もはや…。「もー」が該当長音形。「へー」は、*-haja → *-haja → *-hai → -ō と変化したものか。）／**もーる**　もる（漏る）。／**やいくいやーれー**　やりくりの上にも更にやりくりをすること。（「やりくりやーれ」の訛形であろう。鹿児島県本土・宮崎県諸県地方（旧薩摩藩領）で「一生懸命」なことを「やーれ」と云う。）／**やくわー**　矢筈。（「矢鍬」の訛形か。「鍬」は「鍬形」の「鍬」。）／**やーせー**　やさい（野菜）。（「やー」が該当長音形。）／**やーねー**　船の屋根。／**やほー**　やほ（矢帆）。…弥帆。…／**やーもーも**　山も。（「もー」が該当長音形。）／**よあーみ**　夜網。…／**よーぎ**　夜着。夜具。…／**よーつくろう**　ふくろう。（「夜梟」と「木莵」との混淆形「よつくろう」の訛形であろう。「夜梟」は、千葉県方言にヘよぼくろ〉等として見える（『日本方言大辞典』）。）／**よなーぎ**　夜風ぎ。夕なぎ。／**よーび**　呼び木。…「―くさーび」。／**よーべー**　夜這い。（「よばい」の語源は「呼ばひ」であろうが、いずれにせよ「よー」は該当長音形。）／**よめじょう**　結婚適齢期の女。…（「嫁女」の訛形。）／**わーい**　おまえ。…又割り地。（前者は「**わい**」とも。）／**わらすべー**　わらしべ。…

このほか、次の例も同様のものと認めることができようが、或るいはそれらはヘ一拍の名詞を長く引いて発音〉していたものが複合語形の中に残ったものと見るのがより適当かもしれない。上記の「**やほー**」「**よーぎ**」等についても、同様の見方が成り立ち得る。

**あらえー**　荒餌。大喰い。…／**からそう**　…からそ（唐麻）…。…／**げーげー**　躾が後退したこと。「―になった」。（「下下」げげ）の訛形であろう。）

これだけの訛形を拾うことは、通常の方言調査ではまず無理というもので、『栗生の方言』の資料的価値はこの点実に大と云うことができる。その挙例に照らして見るに、栗生方言の長音訛形は、アクセントに関連して発生したものではなく、また、語句末母音の無声化→音節の短縮に対する補償現象によるとして全て説明し得るものでもない。なぜ長音化するかについては、いまのところ、なお検討を要するとしか云えないが、栗生方言がai・oi・ei・ui複母音の長音化等にも見る如く基本的に長音化に対する傾きの強い方言であることには注目しておいて良いであろう。

⑦の2.

一方、長母音の短音化現象を反映すると見られる例は、数少ない。

**いちのき**　いちいの木。…／**おせもん**　お誓文。大工が建築や造船が落成したときに祀る…祭文。…（「御祭文」オサイモン→オセ

ーモン→オセモンと転じたものであろう。〉／**おちよぶし**　大津江節。／**けおいくぎ**　貝折釘。…〈カイ〜→ケー〜→ケ〜と転じたものであろう。〉／**こきいも**　七福蕷。…羽生幸吉…蕷一叺を…貰った。その中から…二十個を栗生へ郵送した。まことに味のよい蕷なので…全島に普及した。幸吉の名を取って「こきいも」といい…。〈「幸吉蕷」コーキッイモよりの訛形であろう。〉／**こば**　耕場。山畠。…〈著者の語源意識を重んじてひとまず挙げる。正しい語源は「木場」であろう。〉／**じょうじゅう**　常住。いつも。…」。〉／**じょろい**　浮瑠璃。〈オ列長音の短縮・ルの母音部分の順行同化・リ→イの諸変化によって生じた訛形。〉／**せっぺ**　精一ぱい。〈或るいは鹿児島県本土方言よりの移入語形か。そうでなければ、セイイッパイ→セーイッペー→セーッペーよりの訛形と見られる。〉／**でしなもん**　大事なもの。〈ダイジナモノ→デージナモンよりの訛形。〉／**てづえ**　手強い。〈テヅヨイ→テヅエー→テヅエと転じたものであろう。〉／**といも**　唐蕷。…／**とんぼ**　唐蕷。…／**よあけんくらみ**　暁闇。〈「夜明けの暗闇」ヨアケノクラヤミ→ヨアケンクラーミ→ヨアケンクラミと転じたものであろう。〉注2

①の3．

アイ・アエ複母音

**あいがてー**　ありがたい。／**あかでー**　あかだい〈赤鯛〉。／**あきねー**　あきない〈商〉。…／**あくせーひろげた**　もてあまして当惑した。〈本州・四国・九州の各地に「あくさいうつ」等の形で「困りはてる」意の表現が見られる。〉／**あちぇむねー**　あてもない。…／**あどねー**　あどなか。〈「**あどなか**」の項には「たあいもない。…」と有る。『日本国語大辞典』によれば、『方丈記』の流布本系諸本にのみへたわいないたわむれ〉の意のへあどなしごと〉の例が見えるとのこと。〈嵯峨本などでは「跡なし事」と表記され、また、中世、古くは「あどなし」の確例が認められないから、あるいは「跡無し事」の例か。〉と有るが、栗生方言のこの語例は、方言国語史的に該語形の存在を証する一徴証となるかへなお、『日葡辞書』『狂言記』等には、へ幼稚で思慮分別がない〉といった意のへあどない〉が見えるようである〉。〉／**あばちゃむねー**　…途方もない。〈鹿児島県本土・宮崎県諸県地方〈旧薩摩藩領〉でアバテンネ・アバチェンネ等と云う。アバテモナイが原形であろう。〉／**あべつけむなー**　あべつけむなか。〈「**あべつけむなか**」には「あてにならない。…」と有る。富山県等でへ心に締まりがないこと〉へ金銭に締まりがないこと〉を意味するに用いるへあべなし〉と関係有るか。〉／**あれー**　あらい〈洗〉。…／**あわえた**　さわした。〈次項に「**あわす**　柿の渋をぬくこと。さわす。」と有るよりすると、アワシタのサ行イ音便形アワイタよりの訛形で、「あうぇーた」と表記有るべきものか。〉／**あんべー**　あんばい〈塩梅〉。／**いうぇー**　いわい〈祝〉。…／**いさけー**　いさかい〈諍〉。／**いちめーざお**　一枚竿。…／**いっぺー**　いっぱい。充分に。…／**いつんめー**　いつのまに。〈*-mani→*-mai→*-mai→-me〉と転じたものか。〉／**いてー**　痛い。…／**いねーぎ**　木桶をかつぐもの。…〈「担い木」の訛形。〉／**いねーごえ**　下肥。…〈「担い肥」の訛形。〉／**いねーぼう**　おおこ〈杓〉。…〈「担い棒」の訛形。〉／**うちげー**　打ち櫂。…／**うちげーし**　打ち越し。何かを隔てて向うがわ。〈「打ち返し」の訛形。〉／**うちけーる**　うちかえる。…／**えー**　あい〈藍〉。…／**えくれーぼう**　泥酔者。〈「酔喰い坊」の訛形。〉／**えーとー**　やいと〈灸〉。／**おおばーれー**　大被い。／**おせもん**　…祭文。…〈①の2、参照。〉／**かってー**　かったい。癪病。…／**かってーしゅう**　片方から次ぎ次ぎに。〈『日本方言大辞典』によれば、口

土永良部島にへ互いにVを意味するへかったいごーしVの語形が見える。これは、九州北部でへ交互にVを意味するに用いるへかったりごしVと関係が有るであろう。かつて九州全域にへ片方ずつVを意味するへかったり〜Vの語形が有り、各地でそれを引き継いでいるのではないか。栗生方言の語形もそれで、カッタリ→カッタイ→カッテーと転じたものではないか（「〜しゅう」については未詳）。）／**かんげーむなか**　考えもなか。かんげむねー。仰山。…／**きいきいめー**　きりきりまい。／**きさねー**　きさなか。（「きさなか」には「きたない。…」と有る。）／**くちえー**　くちあわせ（口合）。相談。…（「口合い」の訛形。）／**くちさっぺー**　口まかせにものいうこと。…（「口策配（嫖）」の訛形であろう。「策配（嫖）」の訛形は、へ差し出口Vの意味で各地に有る。）／**ーぐれー**　…ぐらい。…／**けー**　かい（貝）。…／**けおいくぎ**　貝折釘。…（①の2、参照。）／**けーしられたこと**　知られたこと。…けーは強める語。（接頭辞ケ(1)は各地に有るが、一方、同じく強調の意を示すキャ(1)が熊本県等アイ・アエ複母音をャ(1)＝ei:）に変える方言で認められる。おそらく両者は同源で、＊カイに溯るものであろう。）／**けーなぶる**　なぶる。…（前項参照。）／**げーのしる**　おたまじゃくし。（「蛙子（かえるこ）の汁」の訛形であろう。）／**けーよせ**　啓蟄。…強風の吹く頃で…この大風で貝を吹き寄せるともいわれる。／**けーる**　かえる。孵化する。…／**げーる**　改良され又は訓練されたものが退化してもとにかえること。（「返る」の転義語頭濁音化形。）／**けんのたけー**　見が高い。見識ばる。…／**げんべー**　ばくち。…（『日本方言大辞典』にへげんべー【源兵衛】ばくちの一種。Vとして各地の例を示すが、中にへ@げんばい@新潟県佐渡Vの例が有る。これが@:→@:の過剰訂正形でなければ、真の原形を示すものであろう（どのような漢字を宛てるべきかは未詳）。）／**こうげー**　こうがい（笄）。／**こうべー**　こうばい（勾配）。／**こしこぐれー**　こんなに少しばかり。これしこぐらい。／**こたげー**　砂糖になる前の糖汁。（「こた粥」*-gaju→*-gai→ge:と転じたものか。「こた」は、各地で「泥」を意味するに用いる「ごた」と関係有るか。）／**ごーてー**　五体。…／**さかむけー**　坂迎え。…／**さっぱちむねー**　粗暴な。…（「さっぱちも無い」の訛形。「さっぱち」未詳。）／**ーさーめー**　…さまに。…（*-samani→*-samai→*-samai→*-same:と転じたものか（saがどの段階で長音化したかは不明）。）／**さんめー**　三百代言。（「三枚」の訛形か。銭三百文相当と云うを札三枚相当と云い換えたものか。）／**したくれー**　下かげになってあるもの。下葉。（「下暗がり」*-kuragari→*-kuragai→*-kurai→*-kurai→*-kure:と転じたものか。）／**しでー**　しだい（次第）。／**しまづてー**　島伝い。／**しめーだす**　外出の身仕度を調える。…（「仕舞い出す」の訛形。）／**じゅうてー**　踊りの祈りの謡い手。（「地謡い」の訛形。）／**しょうじきんでー**　正直台。かんなを押すときに用いる台。…／**しょうてーもち**　世帯持ち。…／**しょうれー**　性来。性質。／**しらへー**　白灰。／**じれーかーぎ**　自在鍵。／**しんちげー**　尻番い。…／**すすさーれー**　筋さらえ。…／**すべー**　すばえ、さし（蠶子）。…／**せー**　さいころ。…／**せーく**　細工。／**せせけー**　大多忙。てんてこまい。…（『日本方言大辞典』にへせしけ（動詞「せしこー」の名詞形「せしかい」の転）非常に忙しいこと。Vと有り、鹿児島県本土方言の例ならびに長崎市のへ@せせかい@Vの例を示す。）／**だちむねー**　埒もない。…／**だーてーむねー**　だらしのないこと（①の1、参照。）／**たべー**　たばこ。…（「たぼう」には「保存。物をかくご（ママ）すること。」と有る。へ大事にしまっておくV意に用いる動詞へたばうVの訛形は各地に有る。栗生方言の例もそれ。「たべー」は「貯（たば）い」の訛

形。）／たーれー　たらい。…／ぢむねー　理もない。…／つらばーぢむねー　面恥もない。…／でー　…又だい（大）。…又台。又代。／てーおさめ　「てー」は逮名弔い即ち年忌弔いである。…（「逮名」とは聞かぬ言葉であるが、〈毎年の命日の前夜〉等を〈逮夜〉と云うところなど見れば、或るいはその辺りから生じた表現か。とすれば、項出語形は「逮納め」の訛形であろう。）／でーく　大エ。／でしなもん　大事なもの。（①の2．参照。）／てーまーつ　たいまつ。／でーら　たいら。畠地や原野山地などの平地になってあるところ。（「平」の転義語頭濁音化形よりの訛形。）／でーんなこと　大事なこと。／どくてー　ろくたい（鹿脂）。…／どーさむねー　造作もない。／としげーむなか　年甲斐もない。／とほうむねー　途方もない。…／とーめー　唐米・外米。…／ななてーめー　七回の逮命。…（「てーおさめ」参照。）／にせー　にさい。ニオ。青年。／ねーげー　ねりかい（練櫂）。…／のーめ　のごまい。「のーめー」玄米。（「野米」よりの訛形の可能性を考えて挙げるが、むしろ「野米」*nogome→*noome→no:me と転じたものと見るのが良いか。）／はくめー　白米。／びんだれー　髪たらい。…／へー　はえ（蝿）。又はう（這）。又はい（灰）。（「はう」は「はい」と有るべきところ。）／へーつくべー　はいつくばい（這い蹲い。／ほうてー　風袋。／ほうのねー　方のない。あてのない。…／ほしさーれーだす　星さらけだす。…（①の1．参照。）／まーげー　まがい。…／まけぎれー　負けぎらい。／まじねー　まじない。／むとうむねー　見とうもない。きたならしい。…／めー　…（①の1．参照。）／めしげー　めしがい（飯匙）。／もーえー　…（①の1．参照。）／もーへー　もはや…（①の1．参照。）／やくてーむねー　やくたいもない。…／やしねー　船のやねやしない（養）。潤滑油。…／やーせー　やさい（野菜）。／やっけー　やっかい（厄介）。／よくれーぼー　酔い喰ぇ坊。泥酔者。…（「酔い喰い坊」の訛形。「えくれーぼう」とも。）／よーべー　夜道い。（①の1．参照。）／るすいうえー　留守祝い。…注3

エイ複母音

えくれーぼう　泥酔者。（「酔い喰い坊」の訛形であろう。イ母音脱落例。）／えくろう　酔う。（「酔い喰う」の訛形であろう。イ母音脱落例。）／かーせー　かせい（加勢）。…／けーあげんふたー　蹴上げの蓋。…（ケリ〜→ケイ〜→ケー〜と転じたものであろう。）／げーむねー　芸もない。…／ごへーだ　五平太すなわち石炭。／しょうれーながし　…夜灯篭を川や海に流し精霊を送る儀式。／せー　…又せい（精）。…／せーご　せいご。すずきの稚魚…／せっぺ　精一ぱい。（①の2．参照。）／せーろー　せいろう（蒸篭）。…／そうびれい　来美齢をもぢった語。…（新語で ɑ: 形を取る例。）／ていた　手板。…（ɑ: 形を取る例。）／でーた　出し板。船の舳に（右舷）屋号を印した板。（「出板」の訛形であろう。）／ななてーめー　七回の逮命。…（アイ・アエ複母音の項参照。）／ねーげー　ねりかい（練櫂）。…（ネリ〜→ネイ〜→ネー〜と転じたものであろう。）／ねーし　根石。…／へいや　閉屋。なんど（納戸）。（「部屋」の誤訂正形。）／めーこ　うえーこ　姪子・甥子。近親。（「めー」が該当長音形。）／もーれん　船幽霊。…（「亡霊」の訛形。ɑ: → ɑ: → eN の例であるが、逆に eN → ɑ: となったと見られる例も有る。「しねー　執念。…」*[ɑ:neN → *[uneN → *[une: → [i:ne:。注4）／わがしんめー　我が身の行末。（「我が身命」の訛形。）

オイ複母音

うえー　おい（甥）。…又おい（追）。…／うっちぇーちぇーけ　…（①の1．参照。）／うてー　うとい（疎）。…／えー　…

又よい、はい。又酔い。／**おとてー**　おととい。一昨日。／**おめー むなか**　思いもなか。…／**きのーってー**　先日。…（「昨日一昨日」の訛形か。）／**さきおとてー**　一昨々日。（「さきおととい」の訛形。）／**しうぇー**　浮海水。…（「潮斉」の訛形。）／**すねーた**　簀の板。…／**せーてー**　一昨昨日。（「さきおととい」*sakiototo*i→*saiottoi→*se:tte:→se:te:と転じたものか。）／**てー**　…又とい（樋）。…／**てーし**　といし（砥石）。／**てづえ**　手強い。（①の2、参照。）／**てのげぇ**　てぬぐい。（「手拭い」の訛形。）／**てーのこう**　樋の河。…／**ふれーもん**　拾いもの。…／**まってー**　待った。その通りだ。…（「実に」*makotoni→*makutoi→*makutoi→*makute:→matte:と転じたものか。）／**めーこ、うぇーこ**　姪子・甥子。近親。（「うぇー」が該当長音形。）／**もーてー**　もとゆい（元結い）。（①の1、参照。）／**よくれーぼー**　酔い喰ぇ坊。…（アイ・アエ複母音の項参照。イ母音脱落例。）／**よくろう**　酔い喰う。…（イ母音脱落例。）／**よのふてー**　夜おそくまで。…夜通し。（「夜の一夜」*-si:toio→*-si:toj。→*-Futoi→*Fute:と転じたものか。共通語の「夜一夜」に相当する語形。）[注5]

ウイ複母音

**いんぶーりー**　犬ぶるい。…／**おぼえしらーぢ**　覚え知らずに。…（*-dzuni→*-dzui→*-dzui→dji(:)と転じたものか。）／**げーしい**　下痢。…（「下濯ぎ」*gesusugi→*gesusui→*gessui→*gefji:→*gefji:→ge:ji:と転じたものか。なお検討の余地有り。）／**こすきー**　粉すくい。さじ。／**しいくわ**　すいくわ。西瓜。／**しーじんどん**　水神様。…（「水神殿」の訛形。）／**しゅうか**　すいくわ（西瓜）。（「しいくわ」と変じて後、ji:とji:の混乱によって生じた語形であろう。）／**ちーしょう**　ついしょう。おもねり。…／**ちーたち**　ついたち（朔）。／**どうしい**　ぞうすい（雑炊）。…／**どうぶーりー**　胴震い。／**ひすきー**　火すくい。じゅうのう（火斗）。…／**ふーりー**　ふるい（篩）。…又ふるい（震）。…／**みぶりー**　身震い。／**もやしい**　たやしい。簡易なこと。…[注6]

①のチ、

オ列長音の開合

古い時代のオウ系・エウ系の音韻に対応すると見られるウ(:)を含む語例が、3例ほど認められる。

**ういきー**　仰山。おうきに。…多い。沢山。鹿児島語に…「うかきい」（多いきい）…で多い沢山の意味である。（「大きに」の訛形か。）*-ki:→*-ki:→*-ki:と転じたものと考えられるが、ウイ～はオー～→ウー～と転じた後何らかの誤訂正により生じたのではないかと考えられる。）／**じゅう**　りょう（漁）。…「―ごうさま」竜王様、海神。（「―ごうさま」の例は、「漁」～でなく、「竜」～として別項に立てらるべきであったものか。とすれば、対応例が1例増える。）／**ぢゅうい**　料理。

なお、「**だっきゅう**　らっきょう。辣韮。」の例も有るが、「らっきょう」の語源がヘ辣韮（韮）ン の字音に在るとすればこの問題からは外れる例となる。

一方、ウー→オーの過剰訂正形と見なされる例が、2例有る。

**いっしょうき**　一周忌。／**ほうてー**　風袋。

このように見ると、過去の一時期、栗生方言においてオウ・エウ→ウーの変化傾向が或る程度見られたのではないかと思われるところである。現在は、左記の如くそれに合致しない例が少なからず認められるのであるが。

うつらはんしょう　うつら半承。…／おおばーれー　大袈い。／おおばん　正月のかざり。…大判。／おおようぎ　大夜靖著。…／おかじょうき　陸蒸気。…／おちょぶし　大津江節。／きのーんばん　昨日のよべ。…／ぐわんちょう　元朝。…／ごうらしか　業らしか。かあいそうに。／ごうらしなーげー　業らしげに。…／じょうき　蒸気船。／しょうし　笑止。気の毒。／しょうべんしかぶい　小便たれ。／そうどう　…さわぐこと。…／だっとう　ざとう。盲人。／ちーしょう　ついしょう。…／ちょうせき　朝夕の食事。…／ちょうせんあさがお　…（「朝鮮朝顔」。）／ちょうちょう　蛾を蝶と混同していう。…／ちょうほう　裁縫。…（「調法」か。）／ちょうれき　懲役。／とうし　桐油紙。…／どうしい　ぞうすい（雑炊）。…（古く「増水」。）／どうひょう　土俵。…／どうぶーりー　胴震い。／とうめえ　燈明。…／どうらん　…胴乱。…／ほうこう　奉公。労役奉仕。／ほうじき　ほうづき。／ほうどう　ほうぞう（宝蔵）。銭などを入れる袋。（cf.『日葡辞書』へFôNo Tacara cura.…また、下では、腰にぶら下げて携帯する袋のことで、上ではそれをFuchibucuro、または、qinchacuと言う。V。）／ほうばれ　耳下腺炎。／ほうぶき　ほうびき（宝引）。…／もやのしょうべん　もや（靄）の小便。…／よーつくろう　ふくろう。（①の1、参照。）

アウ系の音韻に対応すると見られる例は、次の例を除き全てオーとなっているようである（動詞の終止形を含む）。[注7]

かるう　背負う。／かーるう　せおう。（「かるう」よりの訛形。九州本土にはカラウ・カロー・カルーの3形が有る。）

ところで、この問題に関連するものかどうか明らかでないが、栗生方言では、ウ列・オ列の短母音の間に若干の混乱が認められる。

ウ列→オ列

おわさ　うわさ（噂）。／おわしる　うわしる（上汁）。／くろぶし　くるぶし。／こうぼし　こうぶし。香附子…／しょせいらんぽー　書生らんぷ。…／じょろい　浮瑠璃。／だんぽー　らんぷ。…／ののこ　ぬのこ（布子）。／はこだんぽー　箱らんぷ。…／ぼくゆう　ぶくりょう（茯苓）。／もろ　むろあじ（室鰺）。…[注8]

オ列→ウ列

あせーぶ　あせぼ（汗疹）。／おぶくれる　おぼれる。…／ぎおんぐち　祇園東風。…（ただし、「こちかぜ　東風。」「こちんかぜ　東風。」。）／なきべす　なきべそ。…／ぬんだいそったい　延びたり反ったり。…[注9]

「～も無い、無く」の助詞「も」は、例外無く「む」である。

あちえむねー／あばちゃむねー／あべつけむなか／あべつけむねー／おめーむなか／かんげーむなか／げしむねー／げむなか／げーむねー／こいとうしむねー／さっぱちむねー／しかしかむねー／だちむねー／だーてーむねー／ぢむねー／つらぱーぢむねー／どーさむねー／としげーむなか／とぼうむねー／とんぢゃくむなか／はづかしむのー／むとうむねー／やくてーむねー

（この現象は、九州北部方言でもトホムネコツ（「途方も無い事」）の如く、散発的ながら現われる。）

その他

ここで、ついでに、母音・半母音をめぐるその他の問題について触れておこう。

イ、ai・aya→a:

いっかーす　逸反す。器をくつがえして中のものを出すこと。…（イッ～は語勢を強める接頭辞であろう。イッカヤスの訛形と見られる。ただし、「いっかえす　いっかーす。」の語形も有り。）

あーもーい　あわもり（泡盛）。琉球で造る火酒。…／かーった　おかしな。腑におちないこと。…（「変わった」の訛形。）／ころびまーる　転び廻る。…／つまーし　津廻し。廻航。…／ひとまーい　ひとまわり（一廻）。一週間のこと。…／ふきまーし　引廻し。腰巻き…／ぶんまーし　ぶんまわし（筆規）。／まーい　まわり（廻）。…／まーし　まわし（廻）。…／よまーい　夜廻り。…[注10]

ただし、ai/ai の変化には、次の如くoi:と成る場合も有る。

てーのこう　桶の河。とい（樋）ひ又は「ひ」をかけた川。／はらごう　魚の腹部。はらがわ（腹皮）。／めのもーる　目の廻る。…

語句によりe音の在り方に強弱が有ったということになろうか。

ロ、イ列・ウ列の短母音の混乱

イ列→ウ列

あかつつ　あかつち（赤土）。／あつらこつら　あちらを少しこちらを少し。あらまし。…／あぶる　あびる（浴）。／いちぶ　いちび。／いっせつらす　逸せ散らす。棄て散らす。…（「いっ棄て散らす」の訛形であろう。）／うだーつ　うだち（桜）。…／かなつつ　金槌。／かなづつ　かなつつ（金槌）。／かまつつ　赤粘土。（「竈土（かまつち）」の訛形。）／くぶい　…結び。（「縊（くび）り」の訛形。）／くぶる　くびる。結ぶ。…／こぶき　こびき（木挽）。／さいづつ　さいづち。…／すごき　しごき帯。／すずむ　しづむ（沈）。／すずもーる　しづむ（沈）。（①の1、参照。）／すた　した（舌）。／すぶく　うずく。（九州本土方言で「すびく」。）／せぶる　せびる。ねだる。…／つつ　土。…／つづまき　…つむじ風になって巻くこと。（「辻巻き」の訛形。）／つらかす　ちらす（散）。／つらす　散らす。／とーす　…又とおし（篩）。…／ながぶつ　ながびつ（長櫃）。／ふかい　ひかり（光）。「ふかる」ひかる。／ふかふか　ひかひか。電光。…／ふきまーし　引廻し。…／ふだいか　腓（ふだ）だるか。ひもじい。／ふっかがみ　ひっかがみ（腿）。／ふっこぐわーし　ひき粉菓子。…／ふとーぎ　しとぎ（粢・糈）。…（シトギ→ヒトギ→フトギと転じたものであろう（長音はどの段階から有ったか不明）。）／ふとっとし　一つ年。同年。／ふふ　火火。火のこと。幼児の語。／ふれーもん　拾いもの。…／ふろう　拾う。／ふろそで　広袖。…／ふんぬく　引き抜く。（「ひん抜く」の訛形か。）／ほうぶき　ほうびき（宝引）。…／みつしお　満ち潮。…／よのふてー　…夜通し。（①の3、オイ複母音の項参照。）／わらすべー　わらしべ…[注11]

ウ列→イ列

いいける　いいつける。（「いいつける」の項有り。「…訓える、諭す。…」と有り。）／いぢけ　ゆづけ。ゆは（湯飯）。／おうぢき　いおつき（魚炙）。やす（箍）。…／おちよぶし　大津江節。／くねーび　九年母。（九州本土方言等で「くねぶ」。『日葡辞書』にへCunabu　甘い蜜柑の一種。〉と有り。）／しだ　重量物などを運ぶとき下に敷いてすべりよくするもの、すら。（「修羅（しゅら）」の訛形。）／しのこま　簀子間。…／にし　おぬし。…おまえ。／ひろしき　ふろしき。／ほうじき　ほうづき。[注12]

これは、母音の無声化が背景となって生じたものと思われる。また、これとは別に、"i→ー"とそれを背景としての過剰訂正とによる混乱も生じている。

ユ→イ

あい　あゆ（鮎）。…／あいみ　歩み。「あいめ」歩め。「あいむ」歩む。／いい　ゆい（結）。／いすぶる　…ゆする…／いぢけ　ゆづけ。…／いびかけ　ゆびかけ。げんまん。／いびがね　ゆびわ。（「指金」の訛形。）／しょうい　しょうゆ（醤油）。／ふいせんもと　冬せんもと（冬葱）。…[注13]

イ→ユ

ふくゆう　ふく蘭。燈心を取る蘭草。

ハ．イ列・エ列の短母音の混乱

イ列→エ列

おこれ　おこり（瘧）。／おねば　やえば（八重歯）。（「鬼歯」の訛形。）／がね　かに（蟹）。…／かめない　かみない（雷）。…（「かみない」とも。）／たけぎ　たきぎ。薪。／たけもん　薪。（「焚き物」の訛形。）／つがね　水辺に居る蟹。…（「津蟹」の訛形。）／ほこれ　ほこり（埃）。…／みよせ　みよし（舳首）。／やねうち　やにうち。…きせるを叩き吸いがらや「やに」を打ち出すもの。

エ列→イ列

こいたんご　肥たんご。…（「肥担桶」の訛形。）／ごいもんぶろ　五衛門風呂。／じゃりん　じょれん。（「鋤簾」の訛形。）／とびら　とべら。／はじくい　はぜ、はえ。（『日本方言大辞典』によれば、佐賀県でへはしくい〉と云うらしい。「淦口」の訛形か。）／みみだき　木くらげ。（「耳茸」の訛形か。）

この背景についてはよく分からないが、過去の一時期、栗生方言において工列音が全般に口蓋化する現象が見られたと考えると、現在よりイ列・エ列の音価が近く混乱が生じやすかったとして、説明がしやすくなるかもしれない。或るいは、先のウ列・オ列の短母音の混乱とともに、ɸ〉ｈ・ｏ〉ｕの傾向の強い琉球方言におけると同様の変化とそれに対する過剰訂正とによるものとして、５母音保存の本土方言と３母音化傾向の琉球方言とを繋ぐ ɸiss iga ｉ：ｓｕの性格を示すものと見るべきか。

二．直音の拗音化と拗音の直音化

直音の拗音化

あちぇこすい　あてこすり。／あちぇむねー　あてもない。…／あちぇやーい　あてもなく。／うっちぇく　打ち捨ておく。（「打ち置く」*utʃiokn→utʃokn。）／うっちぇーちぇーけ　おきざりにしておけ。（「打ち置いておけ」*utʃioitʃeoke→utʃe:tʃe:ke。）／かなちぇがら　かなてこ。…（「金手柄」の訛形か。）／くーびょーなげた　首を投げた。悲観した。／くわくわ（鰍）。…／さんばしょう　さんばそう（三番叟）。／しやさっちぇ　明々後日。（「しあさって」の訛形。）／しゅうた　すふた。…／しゅうたれ　いくじなし。（「潮垂れ」の訛形か。ただし、「しおたれ」の項有り。「…又見すぼらしい格好をしておるさま。」と有り。語形変化に伴ない意義分化を生じたものか。）／じゅうら　つら。…／じょうい　ぞうり。／しょうから　塩辛。／しよたれ　みすぼらしい姿。…（「潮垂れ」の訛形であろう。）／しよのみ　そねみ。／ちぇ　て（手）。…／ちぇんま　伝馬舟。／ちょうのー　ちょうな（手斧）。／とんぐわ　唐鍬。…／なーにょうがら…（①のー、参照。）／にがちぇ　にがて（苦手）。にが肌の人の手。…／ほねんそれちぇ　ほねがそれて。骨おしみになって。…／まちぇ　まてばしい。／みみじゅら　みみづら（耳面）。…

ɸ→ｈ：ɸ の如き口蓋化の例・イオ・エオ複母音の訛形の例・ku ea→ｋｅａ の合拗音化の例である。

拗音の直音化

がづま　…がじゅまる。…（琉球でもガジマルの如く直音形を取ること多し。検討の余地有り。）／ぎった　ごむ。…（鹿児島県本土でも同様に云うが、九州北部方言形ギュッタ。）／さんじつ　さんじゅつ（算術）。／しごむ　しゃがむ。／しじつ　手術。／しちん　しゅちん…（繻珍）。／しねー　執念。…／じゅくじん　琉球人。…／じょうろう　丈量。測量。／しんぎく　…春菊。／じんた

く　じゅんたく（潤沢）。／そーけ　ざる。（「小笊」の訛形。）／そらく　そりゃく（疎略）。／づつなか　術なか。堪えがたいこと。…／どやみ　じょやみ（序病）。…／にんじつ　にんじゅつ（忍術）。

ホ　雑

おうぢき　いおつき（魚突）。やす（箒）。…（io→oːの変化。cf.「いお　うお（魚）。…」。）／こうじ　こうぞ（楮）。（*ko→ご の変化。）／はーよう　早緒。…（*ao→oːの変化。）／よつい　えつり（様）。…（*e→jo の変化。）／よなーけた　夜があけた。（「夜の明けた」*-oa- →-aːの変化。）

①の5

が行鼻音と語中語尾のカ行子音・タ行子音の有声化とについてこの資料が語るところは少ない。わずかに、次のような例に、が行鼻音の弱化の例を示すに止まる。

こいな　このような。（*kogena→*koẽna→*koena→koina と転じたものか。cf.「そげん　そのように。…」。）／なおい　なごり（余波）。風が静った後なお波浪が残ること。…（*nagori→*naoi→naoi と転じたものか。）[注14]

①の6

シェ・ジェの残存についてこの資料が語るところは無い。

ダ行音のラ行音化はほとんど認められない。わずかに次のような例を見る。

かくら　拡座。がくい。（「がくい」には「拡囲。坑などの広さ。」と有る。語源が解説の通りであるとすれば、カクザ→カクダ→カクラと転じたものか。）／じれーかーぎ　自在鍵。（ジザイ→ジゼー→ジデー→ジレー→と転じたものか。）／といはらだつ　鳥肌だつ。…／ろくろう　六道。…[注15]

むしろ、ラ行音のダ行音化が目に付く。

きんぢょう　斤量。…／じこう　利口。…／じし　利子。／じづめ　理詰め。…／じゃん　りゃん（両の唐音）。…ふたつ。／じゅうりょう（漁）。…「―ごうさま」竜王様…／じゅくじん　琉球人。…／だっきゅう　らっきょう。…／だんがさ　らんがさ。洋傘。（「蘭傘」の訛形。「蘭」は「和蘭陀」＝西洋＝の略。）／だんきー　…（①の1、参照。）／だんぐい　乱戦。…／だんばーれー　…（①の1、参照。）／だんぽー　らんぷ。／ぢむねー　理もない。…／ぢゅうい　料理。／ど　…櫓。…／どく　ろく。…「禄」の訛形。）／どぐい　ろぐい。ろべそ。／どくしょう　…禄青。／どくてー　ろくたい（鹿胎）。／どくび　ろくび。貫子。（「ろくび」には「負い子。六部の負いづるに似ているのでいう。…」と有る。）／はこだんぽー　箱らんぷ。…[注16]

四つ仮名の区別は無いので、「じ～」で表記されていても、音価は「ぢ～」表記のそれと同じdʒ-である。

ザ行音とダ行音の混同については若干の例が拾える。

ザ行音→ダ行音

あだわいか　いやらしい、きたならしい、むごたらしい。大変な、恐ろしい。（「災か」の訛形であろう。ただし、「わだわいか」の例有り。「災いになるほど仰山な。…「―か」恐るべきもの。」と有り。両形併存か。）／あだわーろー　あざわらう。／おこどい　おこそぞり。…（お髪剃）。／おどむ　眠っていたのが目がさめる。（九州本土方言形オゾム。）／こいだし　腰抻し。…／だっとう　ざとう。盲人。／だまなし　ざまなし。弱虫。／だめく　…多数集ってさわぐ。…（「騒く」の訛形「ざめく」よりの転か。）／どうしい　ぞうすい（雑炊）。…／どーさむねー　造作もない。／どやみ　じょやみ（序病）。…／はなどん　花園、庭園。／ほうどう

ほうぞう（宝蔵）。…／わだい　恐るべき。…（「わだわいか」よりの訛形であろう。）／わだわいか　…（「あだわいか」参照。）

ダ行音→ザ行音

いぜ　いで（井手）。…又ゆで。…／うぜぎ　うでぎ（腕木）。…／なんぜん　なんてん（南天）。…（鹿児島県本土でナンデンと云う。）／ろのうぜ　櫓の腕。…

ラ行音のア・ヤ・ワ行音化については次の通りである。

ラ

かーい　かるい。…せおい（背負）。…（「担い」よりの訛形か。）／かーす　…又からす（鳥）。…／ないわする　ならわする。…（注14）

「あっちゃこっちゃー　あちらはこちら。反対に。」といった例も有るが、同時に「あつらこつら　あちらを少しこちらを少し。あらまし。…」の例が有るところを見ると、それは、栗生方言中での変化形と云うより移入訛形と云うべきものであろう。

cf.あがばら／あったらしい／あつらこつら／あらえー／あらくましい／あらけ／あらける／あらこう／あらしか（／あらぼねおい）／いっせつらす／いもがら／いら／いらいら／いらいらっと／いらこ／うらかぜ／うらぶ／おぎら／おすけられる／おらぶ（／かくら）／がしいら／かたつら／かなちぇがら／から／からいも／からげ／からそう／がらっぱ／かわせーら／かわら／きくら／くちびらき／くちわら／くらぐら／くらむ／くらわす／けしら／けーしられたこと／けつらしか／けらすみ／ごうらしか／ごうらしなーげー／こころざーしゃーにらんは／さくら／ささら／さら／さらいだし／さらばさっぱいてらんまえ／さんてんぼら／しいら／しおんからか／じたらく／じゅうら／しょうから／しらさーぎ／しーらしーら／しらはえ／しらへー／しらむし／せからしい／せつらしか／そうがらしい／ぞっさらしい／そーら／そらく／そらまど／たからんばーち／たまがらかす／たまらん／だんばら／ちょくらかす／つまらん／つらかす／つらし／つらす／つらばーぢむねー／つらんかわ／てびらき／でーら（／といはらだつ）／どうらくもん／どうらん／とくじらーみ／どっさらしい／とびら／とぶくら（／なーにょうがら）／なーみーおられる／なめくぢら／ならん／にこしらかす／ねんからねんぢゅう／はくらい／はぐらかす／はくらん／はちごうあらため／はちひらき／ばってら／はなあぶら／はらかく／はらがましい／はらごう／ーはらだつ／はらんきわく／ひがらめ／ひぐらもと／ひら／ひらけた／ふなばら／ふらふら／べーら／またづら／まっつら／まらかす／みみじゅら／むけらい／めくらもち／めつぶら／やたらむたら／やわらしい／よあけんくらみ／わらうち／わらすべーり

あーい／あいあいと／あいがてー／あいぎれ／あーいなーい／あいもん／あおい／あがい／あがいざ／あがいさがい／あがいもん／あたい／あだがいつく／あたまかぶい／あちぇこすい／あちぇやーい／あぶいこ／あまいもん／あーもーい／いーー／いいざかな／いいしお／いいめ／いいもん／いえない／いかーい／いきとーいけとーい／いけどい／いざい／いざーい／いのい／うーい／おいとき／おいばしい／おいめ／おいもん／おいる／おくい／おこいさめ／おこどい／おしゃぶい／おっこい／おとこずわい／おにとい／かい／かーい　…又かり（獵）。…／がい／かいのお／かーいのこ／かかい／かがい／かがい／ががいのこ／かざきい／かすい／がっくい／がっしい／がっつい／かまいい／かみない／かめない／がんぶい／がんぶいともせん／ぎい／きいきいめー／きいだめ／きいのお／きいや／きいやげ／ぎっくい／きどい／きぶい／きんちゃっきー／くい／くーい／ぐっすい／くぶい／こあたい／こうい／こうもいだっか／こじい／こそくい／ごっそい／ごっとい／こぶい／ごまーい／

こよい／ごろいと／こわい／さかもい／さくい／さしつくじい／さっくい／さっさわい／さっぱい／さっぱーい／さばくい／さらばさっぱいてらんまえ／さわい／しい／しおいい／しおくい／しきたいしたどい／しっかい／じったい／しのわい／しばどい／しまたぐい／しゃちばい／しゃっくい／じょうい／しょうべんしかぶい／じよろい／すい／すいこぎ／すずいぶた／すすとい／すったい／すっぱい　ずっぷい／ずんばい／ずんぶい／そーくい／そっくい／そぶい／たおい／たけぶい／たことい　…（「他行取り」の訛形か。）／たばかい／だぶい／ちきー／ぢすい／ぢない／ちゃまつい　…（「茶祀り」の訛形か。）／ぢゅうい／ちょろいちょろい／ちんごいともせん／ちんぢん／つい／つーい／つくい／つけたいひーたい／つっぱい／でばい／とい／とーいかーじ／とーいがーけ／といざかな／といじい／といつむる／とーいどーい／といはらだっ　といもーい／といもーる／どうないこうない／どっかい／とっくい／どっさい／とったいやったい／とびのい／どもい／どんぶい／ないないたつ／ないやがい／なおい／なかない／なすいつけ／なっかぶい／にがい／にぎー／によい／ぬっすい／ぬっつい／ぬんだいそったい／ねあがい／ねほいはほい／ねむい／のい／のーい／のこいもん／のっそい／のぼい／のみとい／はおい／はかい／はぎー／はこづい／はしい／はつい／はったい／ばったい／はっちゃぶい／ばばいー／はやいびょう／はんぎー／はんきい／ひだいまき／ひとまーい／ひばかい／ひまわーい／ひよーい／ひょっかい／ふいかぶい／ふかい／ぶっつい／ぶっとい／べったい／ほーいどん／ぼうふい／ほじい／ぼっきい／ぼっくい／ほなーい／まーい／まくい／みづまつい／むいなか／むかわいづき／めしごーい／めっさい／もーい／もいのき　やいくいやーれー／やいやい／やっぱい／やなごい／やまどい／ゆっくい／よい／よいき／よいづき／よがわい／よごもい／よつい／よづい／よまーい／んまとい

ル

さいく　歩きまわる。さるく。／つんのはーし　つるばし。／なんもんか　なるものか。／ひんね　ひるね。／ふだいか　脾だるか。ひもじい。／ふんめし　ひるめし（昼飯）。

cf.いんづる　ゆづり木。…／おはーる　…（①の1．参照。）／おわしる　うわしる（上汁）。／かるう　背負う。…／かーるう　せおう。／げーのしる　…（①の3．アイ・アエ複母音の項参照。）／さるく　歩き廻る。さいく。／しるごーき　汁碗。／すまーる　すばる星（昴）。／つるっと　まどろむさま。…又つるりと。／つるべ　いど。…／ぬるか　ぬるい。熱くない。おそい（遅）。／のーびる　のびる（野蒜）。／ひーる　…（①の1．参照。）／まーる　まる（虎子）。便器。／まるき　丸木。…

このほか、ル語尾動詞の例110例ほど有り。

レ

くえ　平木。…くれ（樽）。／けおいくぎ　…（「掻い折れ釘」の訛形。）／こいほんなこと　こんなにたくさん。（「是れ程な事」の訛形か。）／ごろふくりん　ごろふくれん（オランダ語）。西洋の毛織物。／じゃりん　じょれん。／すだい　すだれ。…／だいやみ　だれ（労）やめ。嘸酌。／つづい　つづれ（襤褸）。…／はなだい　洟汁。…はなたれ。／よだい　よだれ（涎）。…／わいおまえ。…／わーい　おまえ。…／わいわい　われわれ（吾々）。

cf.あよしこれよー（あれー）／あーれー／いぎれはぎれ／いたぎれー／いれこ／いれもんがましい（えくれーぼう）／えれき／おすけられる／おぶくれる　かたなぐれ／かつれ／かれこーす（がれーぶ）／くどーれ　けくされ／けんれい／こがれる（こしこぐれー）／こだれ／さねはなれ／しおたれ／しなだれ／しゅうたれ（

／しょうれー）／しょうれーながし（／じれーかーぎ／すすさーれー）／すすれ／せがれる／ぜれぜれ／そうびれい／たけぎれ／たもれ（／たーれー）／だれる／だんばーれー／どれーん／ながれふね／なたおれ／なーみーおられる／ぬれしぼたれ　はぐれる（／びんだれー）／ぶたれー（／ふれーもん）／ぼうちぎれ　ほうばれ／ほこれ（／ほしさーれーだす）／ほとびれる／ほねんそれちぇ／まぐれもん（／まけぎれー）／もーれん／やいくいやーれー／よーいちれー（／よくれーぼー）／われもん

ロ

つーこーせ　叩き殺せ。（①の1、参照。）

cf. あんわろう／うせろう／うつろう／えくろう／おろ／おろす／くろばえ／くろばと／くろぶし／ごいもんぶろ／ごうくろしい／こころざーしゃーにらんは／ごろう／ごろいと／ころっと／ころばかす／ごろひき／ころびまーる／ごろふくりん／さこんたろう／さんごじゅうろく（／じょうろう／じょろい）／しろ／じろ／せーろー／たかたろう／だびろか／だんぶくろ／ちょろいちょろい／ちょろちょろ／ちょろっと／ちんばくろう／ところ／とどろ／どろい／とろか／にろく／はないろ／はなじろう／はーろむ／ひょろつく／ひろしき／ひろつく／ひろっとも／ふろ／ふろう／ふろそで／ふろとぎ／ほろ／ぼろ／ほろほろ／まぐろしび／もろ／もろう／もろぶた／やまたろう／よくろう／よーつくろう／よろよろ／ろくび／ろくろう／ろのうぜ[注18]

リについては、イに変化することがほぼ完全な法則性をもって認められる（例外「ちんぢん」）が、ラ・ル・レ・ロについては、イ・エ等への変化が語彙的に認められる程度である（レの場合がやや傾向的か）。栗生方言は他の屋久島諸方言に比べてラ行音のア・ヤ・ワ行音への変化傾向の弱い方言であることが、証される。

なお、ラ行関連の拗音でヤ行音に転じた例が、次のように認められる。

しょうよう　精霊。…／ぼくゆう　ぶくりょう（茯苓）。

また、これらの変化に対しての過剰訂正形と見られる例が、次のように認められる。

あれ　おち（落）。「―る」おちる。「―た」おちた。（「あえ　おち（落）。「―る」おちる。」「あゆ　おち（落）。「―る」おちる。」の例も有り。九州本土方言形アエタ・アユル。）／あわれくさか　さわし柿のようなにおい。熟柿くさい。（「あわ（ママ）えた　さわした。」「あわす　柿の渋をぬくこと。さわす。」と有るよりすると、アワシクサカのサ行イ音便形アワイクサカが原形か。）／ちょうれき　懲役。／つらもん　強者。つわもの。／どろめき　どよめき。鳴動。（「どよめく　さわぐ。どろめく。」有り。）

①の7.

おすけられる　押えつけられる。うなされる。…（「押し付けられる」の訛形か。その場合、～シ～が脱落するとともに～ツ～の摩擦音化が生じたものか。破擦音の摩擦音化の例は、「きさなか　きたない。…／きさねー　きさなか。（ともに、九州北部方言形の如きキチャ～からの転と考える。）」「さーす　さつ（紙幣）。…」「だーす　さより。…だつ。」の如く拾える。）／でーんなこと　大事なこと。（cf.「でしなもん　大事なもの。」。ダイジ→デージ→デーシと転じた後、鼻音～ナ～に引かれて～シ～の撓音化が生じたか。）／はっしい　歯茎。（「歯肉（はし）」の訛形であろう。）／ふとーぎ　しとぎ（粢・糈）。…（シ～→ヒ～→フ～と転じたものか。）

「年（とし）」「飯（めし）」等の　シは、変化を見せないようである。

①の8.

いふわー　うそ。…（上屋久町一湊方言等でイェワと云う。）
ヒ〜の脱落例として、次の例が挙げられる。
さしか　久しか。久しい。／しやーく　ひしゃく。…
①の9．
あわえた　…（①の3．アイ・アエ複母音の項参照。）／うぇー　おい（甥）。…又おい（追）。…／しうぇー　…（①の3．オイ複母音の項参照。）／めーこ、うぇーこ　姪子・甥子。…／るすいうぇー　留守祝い。…
おうくわん　往還。大通り。…／くわ　くわ（鍬）。…／くわんくわん　裸下駄。歩むとくわんくわんと音がするのでいう。…（『日本方言大辞典』は、へかんかんvの一項で、へ（歩く時の音からか）げた。幼児語。vとして滋賀県・鹿児島県本土・福井県・岐阜市・徳島県・山形県米沢市等の例を示す。）／くわんじん　勧進。乞食。…／ぐわさーっと　大きく破れ又は開かれたさま。／ぐわちぐわちぶすぶす　小便。…用務員。（「月行司」の略形転義か。）／ぐわっさい　ぐわさーっと。（これもリ→イの例か。）／ぐわんちょう　元朝。…元日の朝。／しいくわ　すいくわ。西瓜。／そーだぐわーし　…（「ソーダ菓子」の訛形。）／とんぐわ　唐鍬。…／にくわっと　にっこりと。／ふうくわたー　ふいご（鞴）。（フウクワ〜は、フイゴの原形フキがワからの転か。）／ふっこぐわーし　ひき粉菓子。…／やくわー　…（①の1．参照。）
cf.おぶっかん　お仏供碗。…（語源が解説の通りとすれば、〜クワン→〜クヮン→〜カンと転じたものと考えられる。ただし、「御仏供様」オブクサン→オブクハンといった語形からの転や、「御仏飯」オフッパンからの pa→ka による生成も考えられる。）／しゅうか　すいくわ（西瓜）。／しょんがつ　正月。／はくらん　くわくらん（霍乱）。…（ハク〜形は、各地の方言に見られる。）[注19]

なお、「がんまく」の解説に「頑幕。頑丈すぎたさま。…」と有って、が〜が合拗音起源の如くであるが、これは「岩幕（がんまく）」の転義語と見るべきものであろう。
①の10．
イ．
語句末にギの来る例が20例、ミの来る例が4例認められるが、いずれも助詞の付いた形が示されていないため、撥音化するかどうかはこの資料からは判断し難い。なお、次のような例が有る。
おん　おに（鬼）。又うに（海胆）。…／おんのこ　鬼の子。…（ただし、「おにとい　鬼とり。子を取ろ子取ろ。」。）／そげん　そのように。…／ふんかぶる　ふみつける。／べん　べに（紅）。…
いん　いぬ（犬）。…／いんのくそ　ものもらい（眼瞼腺化膿症）。…（「犬の糞」の訛形。解説に「不潔なため生ずるので…いう。」と有るが、むしろ形状の相似による命名と見るべきか。）／いんぶーりー　犬ぶるい。…／かたぎん　肩衣。…
ロ．
ル語尾動詞の例110例ほど、いずれもそのままでは撥音化しない。
こじくんな　こじけるな。（cf.「こじけ　寒い外気に身をさらすこと。…」。カ行下二段活用動詞コジクルの終止連体形が禁止の終助詞ナの鼻音に引かれて撥音化したものと見られる。）／なんもんか　なるものか。（ラ行四段活用動詞ナル（成）の終止連体形が形式名詞モノの鼻音に引かれて撥音化したもの。）
ハ．
該当例無し。
ニ．
もーれん　船幽霊。…

ホ。

ん　うん。／んだもう　あらまー。〈cf.『日本方言大辞典』へうだ　『感』…驚いた時の語。おや。福岡市「うだ、どうしたまあ」…V。〈うんだ　『感』…驚いたりあきれたりした時に言う語。あら。おやまあ。これはこれは。長崎県対馬…〈うんだも〉鹿児島県鹿児島市…姶良郡…〈うんだまー・んだまー〉福岡市…〈うんだもしたん〉鹿児島県鹿児島郡…V。〉／んで　まー。…意想外の出来事に驚いていう語。〈cf.同へいで『感』…あきれた時などに発する語。〈いでそ〉土佐…V。〉／んども　自分んども。…「んどが」自分らが。〈「身共」の訛形か。〉／んにゃー　いいえ。…〈『日方言大辞典』はへいんにゃVの項で各地に有るへ〈うんにゃ〉Vの例を示す。〉／んね　姉。〈「ねんね　姉。」とも。〉／んばおや。…／んーばー　おやまあ。〈以上2項、屋久町の他の集落の一部で云うオワッ・オーワーと関係有るか。〉／んばおやし　乳母育し。…／んまか　うまい。／んまとい　うまとり。／んまんこうまのこ。子安貝。

このほか、撓音をめぐっては、次のような例が拾える。

いっちんち　一日。…〈「一日」の訛形。〉／おんがめ　…かまきり。〈「拝め」の撓音添加例。九州各地に同語形有り。〉／おんじょう　…専ら老男子に用いる。…〈解説に「媼尉」と有るが、誤りであろう。オジジョーの訛形と見られる。〉／おんばく　…おうばこ。〈「大葉子」の訛形。〉／おんぼう　…老母。〈①の1、参照。撓音添加例。〉／けんしょう　おしろい。…〈「化粧」の撓音添加例。〉／こうもいだっか　こんもりと高い。／しねー　執念。…〈撓音の長音化例。〉／しねーぶ　畠地路傍などに自生するもの。…〈「自然生」の訛形か。とすれば、撓音の長音化例。〉／しょんがーぶし　昌蒲節。…〈長音との語音顚倒例。〉／しんそう　しそう〈紫蘇〉。〈撓音添加例。〉／しんぼ　しっぽ〈尻尾〉。〈リ→ンの変化例か。〉／すんぬけ　すぬけ〈素抜〉。…〈撓音添加例か。〉／ずんばい　…いっぱい。〈ツッパリの訛形か。〉／だちく　だんちく。…〈「薄竹」の撓音脱落例。〉／ちんぢん　ちりぢり。…〈リ→ンの変化例。〉／ちんばくろう　つばくろ。つばめ。…〈撓音添加例。〉／ついだん　越中ふんどし。〈『日本方言大辞典』へつりべこVの項の記述を参考にすれば、「吊り手綱」の訛形か。ツ→ンの例。〉／とんぐわ　唐鍬。…〈長音からの変化例。〉／とんぼ　唐蔕。…〈ˣˈˈˈ→ˣˈˈˈ→ˣˈˈˈ→ˣˈˈˈ→ˣˈˈˈと転じたものか。〉／なんこやし　投げ越やし。…／にーじん　にんじん〈人参〉。〈長音化例。〉／はんぎー　はぎり。…〈「はぎー　はぎり。…はぎしりすること。」とも。撓音添加例。〉／べんなか　べつな。〈「別なか」べツナカ→べッナカ→ベンナカと転じたものか。〉／ぼんさん　坊さん。…〈長音からの変化例。〉／めたんだ　めただれ。…〈メタダレ→メタダイ→メタイダ→メタンダの如く、語音顚倒が作用して生じたものか。〉／もんめん　もめん〈木綿〉。〈撓音添加例。〉／よわたん　よわむし〈弱虫〉。〈「弱垂れ」ヨワタレ→ヨワタイ→ヨワタンと転じたものか。〉／わんが　わがが。あなたが。[注20]

撓音添加例としたもののうち、撓音が濁音の前に立つものについては、或るいは古い時代の濁音の前の入りわたり鼻音の名残りと見得るものが有るかもしれない。なお、「しばどい　四番鶏。夜明けを告げる鶏鳴。」の例が有って、撓音脱落例の如くであるが、これは解説の誤れるもので「屠鳥」の訛形と見るべきものと思われる。

また、「～者」「～物」に対応する語形は、43例全て～モンと撓音形を取る。「しーじんどん　…〈「水神殿」の訛形。〉」「はなどん　花園、庭園。」の如きノーン対応例も有る。打ち消しの助動

詞「ぬ」に対応する語形は14例ほど有るが、全て撥音形を取る。格助詞（主格・連体格）「の」に対応する語形は34例ほど有り、撥音形を取るもの19例、ノ形を取るもの15例（うち3例は撥音に続くもの）である。

①の11、

イ、

該当例無し。

cf.いんどーき　一時に…／おきどこ　ろべそを差すためにしつらえた床。…／みみだき　木くらげ。（「耳茸（みみだけ）」の訛形か。）

ロ、

該当例無し。

cf.いんのくそ　…（①の10、イ、参照。）／おんのこ　鬼の子。…／くぎぬき　バール。…／つきのもん　月のもの。…月経。／つんのはーし　つるばし（つるば）。／でしなもん　大事なもの。／でーんなこと　大事なこと。／としのばん　年の晩。…大晦日。／とびのい　とびのり。…／はーしんこう　はし（橋）。又梯子。／べんなか　べつな。

ハ、

該当例無し。

cf.とくじらーみ　つぶじらみ（陰蝨）。…／みみじゅら　みみづら（耳面）。

二、

該当例無し。

cf.いんぶーりー　犬ぶるい。…／おときばなし（おとぎばなし）　おとぎばなし（おとぎばなし）。／おとしばなし　おとぎばなし。／しゃちばい（しゃちこばり）。…／めしばーち　飯鉢。…

ホ、

あっちゃこっちゃー　あちらはこちら（はこち）。反対に。（①の6、ラ行音のア・ヤ・ワ行音化ラの項参照。）

cf.おぎら　じまん…／かたつら　片面。…／きくら　きくらげ（木耳）。…／くらぐら　暗々。たそがれ。／けしら　きせる（煙管）。／さくら　鱸の椎魚…やや長じたもの…／しい　しり（尻）。…「—たぶら」しりたぶら。…／とびら　とべら。／とぶくら　とぶくろ（戸袋）。／はなあぶら　鼻油。…／へーくそかづら　へくそかづら（屁屎葛）。／またづら　又伝ら。…／まっつら　真面。

ヘ、

該当例無し。

このほか、促音をめぐっては、次のような例が拾える。

いっちがひ　一っちが日。一日中。…（促音添加例。）／いっちんち　一（ひと）日。一日中。…（同。）／いらいらっと　…（目。）／うっちゃぶる　うちゃぶる。…（ッ→ッ[ɲ]ɲ→ッ[ɲ]ɲの例。）／うっちゃめ　うちあめ。…（前項の類例。）／うっちゃる　…（「打ち違る」の訛形。前々項と同じ変化の例。）／えった　えた。…（促音添加例。）／かってー　かったい。（同。）／くっさいもん　腐れ物。…（同。）／くっしゃめ　くさめ（嚏）。（同。）／しゅうきーがいおわけ　周吉が魚分け。…（シューキッガイオワケよりの訛形であろう。とすれば、促音の長音化例。）／すってっぽう　…素鉄砲。（促音添加例。）／ぢきさい　実際。（過剰訂正例。）／とっかけ　とかげ。（促音添加例。この例は各地に有り、またトリ～形を取る方言例も有る。或るいは、それよりの転か。）／どっきゅう　弩弓。…（促音添加例。）／まっつら　真面。（同。）／みっちお　満ち潮。…（「みつしお　満ち潮。…」の例も有り。ッ→ッ[ɲ]ɲ→ッ[ɲ]ɲの例か。）／めっかん　目にかからない。まだお目にかからない。お早うございます。（メンカカランよりの

訛形か。とすれば、撥音の促音化例。）

②の1．

二段活用動詞と見られる例は、次の通りである。

あゆ　…「―る」おちる。／いっかくる／いっする　…（「いっ棄つる」の訛形。）／うっする　…「うっ棄つる」の訛形。）／おしかくる／おゆる／かたむる／きむる／こじくんな／といつむる／はいづる／はぶつる／わす／おわす。…「わする」あられる。

一方、一段活用化していると見られる動詞が、次のように認められる。

あつける／あえ　…「―る」おちる。／あらける／いいきかせる／いいちける／いいつける／いっかける／いっせる　…（cf.「いっする」。）／うっせる　…（cf.「うっする」。）／おしかくる　…「おしかける」。／おすけられる／おぶくれる／きめる　…（cf.「きむる」。）／こがれる／せかせる／せがれる／だれる／つかまえる／ぬくめる／はぐれる／はめつける／ほとびれる／まげる／もつれる／ゆでる／よびつける

この結果を見るかぎりでは、東生方言における二段活用の残存率はあまり高くないと云える。なお、ナ行変格活用動詞相当の例は、見当たらない。

②の2．

該当例無し。

②の3．

「～も無い」相当の語形については、①の4．ウ列・オ列の短母音間の混乱の項に示した通りである（カ語尾形7例・イ語尾形訛形16例）。そのほかについては、次の通りである。

カ語尾形

あだわいか／あどなか／あーもー（ごーらしか）／あよしか／あらしか／あわれくさか／いたか／うとか／えんか／かまくさか／きさなか／きつか／くつがいか／こうもいだっか／ごうらしか／こげくさか／ごつか／こわか／さがなか／さしか／しおんからか／しんどうか／すばやか／せつらしか／だびろか／たやすか／づつなか／つましか／とろか／にい（新い）。「―か」…／ぬっか／ぬるか／ひやか／ふだいか／べんなか／ほめか／みーなか／むいなか／むぞか／もやすか／よか／わだわいか／んまか

イ語尾形由来形

あいがてー／あったらしい／あどねー／あらくましい／いてー／いとしい／いれもんがましい／うてー／えー／かたがたしい／きさねー／きつい／けんのたけー／ごうくろしい／さかしい／せからしい／そうがらしい／ぞっさらしい／どっさらしい／どろい／はらがましい／ぼやしい／もやしい／やかましい／やわらしい

43例対25例でカ語尾形が若干優勢のように見えるが、具さに見ると、アドナカ対アドネー・イタカ対イテー・キツカ対キツイ・モヤスカ対モヤシーの如く両形併存の例が有って、軽々な判断を許さない。実際のところ、カ語尾形を取るかイ語尾形由来形を取るかは語句によって確定的なものではなく、日常の場面で前者が採用される割り合いがわずかながら高いというのが妥当なところであろう。なお、次のような例も有る。

つらし　辛し。「―か」心苦しい、気の毒。「―い」心外な。「―まァ」。又取るに足りないこと。軽べつした語。

【　注　】

1【補足】あかめー　赤眼。又あかめの魚。／あせーぶ　あせぼ（汗疹）。（ただし、「汗疣」が語源とすれば、①の3、エイ複母音の項に挙ぐべき例。）／あっぱー　あば、おし。（「あば」とも。）／いざーい　いざり（大漁）。…／いんきょう　いんきょ（隠居）。／おおぎ　大木。さとうきび（甘蔗）。（「蔗」の訛形。／がれーぶ　えびづる。（「がねぶ」の訛形。）／じゃー　さようか。ほんとか。（ヂャル→ヂャッ→ヂャと転じた後長音化したものであろう。「ちゃー」とも。）／ちーご　こま（独楽）。（「稚児」の転義訛形かと見て挙げる。）／ちゃーとうはなこう　茶燈花香。…／とえー　かもい。…（「戸柄」（？）の訛形か。）／ばっちい　朝鮮語パッチ。…股引。

2【補足】えくれーぼう　…（「酔い喰い坊」エイクライボー→エークレーボーよりの訛形。）／えくろう　…（「酔い喰う」エイクラウ→エークローよりの訛形。）／おこどい　おこそぞり。…（お髪剃）。／しねー　執念。…（①の3、エイ複母音の項参照。）／やなごい　柳行李。

3【補足】かざすべー　雨のしづくという降るとも知らぬ程の極小雨。（『日本方言大辞典』にへかざそべー【風―】風が吹くたびに雨を伴なうこと。神奈川県三浦郡…〉の例が有る。また、へそばえ【戯】①時雨。…②にわか雨。驟雨…。むらさめ。…③夕立。…④冬の驟雨…。冬の雨や雪に強風の加わるもの。…⑤小雨。…⑥降ったり照ったりで日和が定まらないこと。…〉として、各地の例を挙げる。カザソバエの訛形であろう。）／げーむねー　甚もない。…／しねー　…又しない（竹刀）。／せーてー　一昨昨日。（①の3、オイ複母音の項参照。）／せーとう　菜刀。野菜包丁。／とうめえ　…又唐米。外米。…／しょせいご　私生児。（「子細子」の訛形であろう。*-ai-→*-ei-→-ei-と転じたものとして①の3、エイ複母音の項に入るべきか。）

なお、次のものは、長音形を取らない（多く漢語）。

さいこん／さいづつ／さいもん／さえんばたけ／さらいだし／だいげん／だいたんもん／ちんだい／てっかい／なえ／ばいがえし／はいづる／はいと／はえ／はくらい／はないき／はないろ／はなえ／ひづかい／むけらい／わだい／わだわいか

4【補足】こーねーがーき　木練柿。甘柿。（*-neri-→*-nei-→-ei-と転じたものであろう。）／とうめえ　燈明。…

なお、次のものは、長音形を取らない。

しんけい／ねいき／ねいた／はつめい

5 次のものは、長音形を取らない。

ごいと　ごっそりと。（『日本方言大辞典』によれば、〈残らず。すっかり。〉等の意味で鳥取県・大分県等の例が見える。り→イの変化例には当たらない可能性が高い。）／しょいがけ　けしかけ。（同書へしょいしょい【白白】…（白い猪…を猟犬に追わせる時「白い、白い」と言ったところから）犬を獲物などにけしかける時の語。日向…鹿児島県…肝属郡（人を扇動する時にも言う）…〉と関係有るか。）／よいちゃっは／よーいちれー／よいとなー／よーいなこと　ようやくのこと。（原形は「漸の事」か。）／よーいよーい　そろそろ。（原形は「漸漸」か。）

6【補足】みーなか　むいなか。無慈悲に。かあいそうに。（「むいなか」とも。鹿児島県本土でもムイナカと云う。『日本方言大辞典』には、鹿児島県の例として〈〈むしな〉〉〉等の語形が見える。案ずるに、原形は「無慈悲なか」で、*muʒi-inaka→*muʃi-inaka→*muʒinaka→*muʒ̥inaka→muʒinaka と転じ

たものか。）

なお、次のものは、長音形を取らない。

きつい／だんぐい／どぐい／ねぶいち／はなぐい／はなすい

7【補足】「とはーごと　途方もないこと。愚にもつかないたわごと。空言。」の例が「途方事（とほうごと）」に発するものとすれば、例外となる。

8【補足】いそぶる　ゆりうごかす。ゆする。いすぶる。（「いすぶる」とも。）／おん　…又うに（海胆）。…

9【補足】あすび　あそび。…／おんばく　…おうばこ。（「大葉（おおば）子（こ）」の訛形。）／かざすべー　…（注3参照。）

10【補足】ごまーい　鳥居型の材を船の艫に立ててあり…その軸木に回転し帆柱を取り扱うための便としたもの。／そこまーし　底廻し。…

11【補足】ふさふさと　ひたひたと。…／ふんめし　ひるめし（昼飯）。

12【補足】ちく　つく（突）。又づく。…樽づく。／ちび　女の性器。…つび…／どくび　ろくび。負子。（「ろくび」参照。）／ぶんごろくび　豊後方面から伝った負い子。…（月。）／ろくび　負い子。六部の負いづるに似ているのでいう。…

13【補足】いそぶる　ゆりうごかす。ゆする。いすぶる。／くつがいか　くすぐったい。

14【補足】けな　こげな。このような。（*kogena→*koëna→*koena→koina→*ke:na→kenaと転じたものか。なお、「こげな」「こげん」とも。）

15【補足】あらぼねおい　徒骨折い。徒労。（cf.「あだしごと　徒仕事。…徒労。」。）

16【補足】かけんど　朋の間の次ぎの間に設けた樽。／どくび　ろくび。負子。／はっさきんど　八丁櫓の最も舳の方の櫓。…

17ア・ヤ・ワ行音化ではないが、「さんば　さらば。手を振いバイバイすること。…」の如き変化の例も有る。

18【補足】あくせーひろげた／あだわーろー／きろくたけはち

19【補足】さんぐわん　だーすと殆んど見分けの付かぬ魚。…

20【補足】えんか　えぐいこと。…（「ピー→ヒー」の例。）／さごし　珊瑚枝。さんご。（撥音脱落例。）

――鹿児島大学教養部助教授――